

2026 年最新 AI エージェント比較分析： Manus、Perplexity Computer、Claude Cowork — 知財業務における実用性と戦略 的導入ガイド

Gemini Opus 3.1

1. イントロダクション：エージェント型 AI がもたらす知 財実務のパラダイムシフト

2026 年現在、人工知能（AI）の技術的進化は、ユーザーのプロンプトに対してテキストを生成する受動的なチャットアシスタントの時代を完全に終焉させ、複雑なワークフローを自律的かつ非同期的に遂行する「エージェント型 AI（Agentic AI）」のフェーズへと移行している。このパラダイムシフトは、高度な専門知識と厳格な機密保持が要求される知的財産（IP）の実務環境においても不可逆的な変革をもたらしつつある。2026 年 3 月 24 日、日本知的財産協会（JIPA）と日本弁理士会（JPAA）の共催により野村コンファレンスプラザ日本橋で開催された「AI 活用シンポジウム」では、会場に 200 名、オンラインで約 1000 名が参加し、知財現場における生成 AI の活用実態と課題が徹底的に議論された¹。同シンポジウムの基調講演において、IP Tech 弁理士法人の副所長であり Smart-IP 株式会社の代表取締役社長を務める湯浅竜氏が指摘したように、知財業界は AI に対する過度な期待や焦り（ハイプ）の段階を過ぎ、実務力を基盤とした現実的な活用、そして「個人利用から組織的活用への転換」という極めて実践的な課題に直面している¹。

知財業務、とりわけ特許出願の明細書作成、先行技術調査（Prior Art Search）、侵害予防調査（FTO）、そして拒絶理由通知に対する中間処理といった一連のプロセスは、厳密な論理的推論と出処の正確性、そして未公開の発明情報や営業秘密（Trade Secrets）を扱う最高レベルのセキュリティ体制が不可欠である。AI エージェントの導入において、AI がもっともらしい嘘を出力する「ハルシネーション」のリスクや、入力データが将来の AI モデルのトレーニングに流用されるリスクは、企業の知財戦略の根幹を揺るがす致命的なインシデントに直結する¹。

現在、世界の AI 市場を牽引し、自律型ワークフローの実行環境としてエンタープライズ市場で覇権を争っている主要なプラットフォームには、Meta 社が巨額で買収した「Manus」、高度な情報検索と複数モデルのオーケストレーションを誇る「Perplexity Computer」、そしてローカルデスクトップ環境での知識労働に特化した Anthropic 社の「Claude Cowork」の 3 つが挙げられる。これら 3 つのプラットフォームは、それぞれ全く異なるアーキテクチャと思想で設計されており、単一のツールですべての知財業務をカバーすることは不可能であるという認

識が実務家の間で定着しつつある²。本稿では、最新の機能仕様、データ保護ポリシー、および実際の業務プロセスへの適合性を徹底的に分析し、企業知財部および特許事務所が真に実務で活用できる AI エージェントの戦略的インテグレーションの指針を提示する。

2. 各 AI エージェントの基本アーキテクチャと技術的特性の解剖

知財実務における各 AI エージェントの適合性を正確に評価するためには、その技術的基盤、動作環境、およびプラットフォームが意図する主要なユースケースを深く理解することが前提となる。

2.1. Manus : 圧倒的な自律実行力とマルチプラットフォーム展開

2025 年 12 月、Meta 社によって約 20 億ドルという巨額の評価額で買収された「Manus」は、自律型エージェント市場において最も急進的なアプローチを採用しているプラットフォームである³。もともと中国のスタートアップである Butterfly Effect 社からスピアウトし、新興企業 Monica によって開発された Manus AI は、シンガポールに拠点を移した後、リリースからわずか 72 時間で 18 万人以上のユーザー（開発者、研究者、スタートアップ等）を獲得するという爆発的な普及を見せた⁴。買収後もサービスはシンガポールから継続して提供されており、すでに 147 兆トークン以上を処理し、8000 万以上の仮想コンピューティング環境を生成した実績を持つ⁴。

Manus のアーキテクチャの最大の特徴は、独自の巨大言語モデル（LLM）を持たず、OpenAI や Google などの既存モデルの上に構築された強力な「実行レイヤー（Execution Layer）」として機能する点にある⁴。ユーザーが目標を自然言語で記述するだけで、エージェントが自律的にタスクを細分化し、リアルタイムでの Web ブラウジング、フォーム入力、複数ソースからの情報集約を実行する⁸。さらに、クラウド上の安全な仮想マシン（VM）によるサンドボックス環境内で、Python スクリプトの作成、データ処理、API 呼び出しといったコード実行までを人間の介入なしに完遂する⁸。プラットフォームの非依存性も高く、専用の Web アプリケーション（manus.im）に加えて、Slack、Telegram、WhatsApp、そしてアジア圏で極めて高いシェアを持つ LINE などのメッセージングアプリから直接タスクを指示することが可能である⁸。GAIA ベンチマークテストにおいては、基本タスクで 86.5%、中級タスクで 70.1%、複雑なワークフローで 57.7%のスコアを記録し、競合他社のリサーチエージェントを凌駕するパフォーマンスを示している⁵。

しかし、この極めて高いレベルの自律性は、裏を返せばプロセスに対するユーザーの統制（コントロール）が及びにくいことを意味する。知財実務のような複雑なコンテキストを伴う業務においては、タスクが進行するにつれてエージェントが予期せぬ方向へ脱線（暴走）するリスクが指摘されており¹⁰、後述する致命的なデータ消失インシデントの要因ともなっている。

2.2. Perplexity Computer : マルチモデル・オーケストレーションとファ

クートの追求

AI 駆動型の検索エンジンとして確固たる地位を築いた **Perplexity** は、2026 年 3 月にエンタープライズ向けの自律型プラットフォーム「**Perplexity Computer**」および「**Comet Enterprise**」ブラウザを正式に発表し、そのエコシステムを飛躍的に拡張した¹¹。**Perplexity Computer** は、単一の AI モデルに依存するのではなく、20 もの最先端のフロンティアモデルを背後で連携させるオーケストレーション・ハーネスとして機能する¹²。

このプラットフォームにおける最も革新的な機能が「**Model Council**（モデル評議会）」である。これは、**GPT-5.4**、**Claude Opus 4.6**、および **Gemini 3.1 Pro** という現行最高峰の 3 つの AI モデルを並行して同時に実行し、それぞれの出力結果を比較・統合するシステムである¹³。**Model Council** は、モデル間で意見が一致する箇所、対立する見解、および各モデルが独自に提供する視点を自動的に合成し、単一モデルのバイアスやハルシネーションを排除した極めて客観性の高い回答を導き出す¹³。また、「**Custom Skills**」機能により、特定のフォーマットや反復的なリサーチ手順を一度学習させれば、永続的に再利用可能な自動化ワークフローを構築することができる¹³。

エンタープライズ向けのセキュリティ基盤も極めて堅牢であり、**SOC 2 Type II**、**HIPAA**、**GDPR**、**PCI DSS**に完全に準拠している¹⁴。すべてのクエリは分離されたセキュアなサンドボックス内で実行され、詳細な監査ログが保持される¹²。さらに、AI ネイティブブラウザである「**Comet Enterprise**」は、**MDM**（モバイルデバイス管理）インフラを通じて組織全体にデプロイ可能であり、**CrowdStrike** との提携によるブラウザレベルの保護、インストール済み拡張機能の可視化、特定ドメインでの AI 動作の制限など、IT 管理者に対して強力なガバナンス機能を提供する¹²。財務や法務、知財といった厳格な情報源の検証が求められる領域において、すべての出力結果がオリジナルソース（**SEC** 提出書類や学術データベースなど）まで完全に追跡可能（**Fully traceable**）である点は、**Perplexity** の最大の優位性である¹²。

2.3. Claude Cowork : ローカル環境へのディープ・インテグレーションと深層推論

Anthropic 社が提供する「**Claude Cowork**」は、知識労働（**Knowledge Work**）の自動化に特化し、クラウド上で完結する他社のエージェントとは一線を画す「ローカルデスクトップ中心」の設計思想を持つ¹⁵。このプラットフォームは、最新の **Claude Desktop** アプリケーション（**macOS** および **Windows** 対応）を通じて提供され、ユーザーのコンピュータ上で直接動作する¹⁶。

Claude Cowork の核となる機能は、「ローカルファイルシステムへの直接アクセス」と「コンピュータ・ユース（画面操作）」である。ユーザーが指定したローカルフォルダ内のファイル（**Word**、**Excel**、**PDF** 等）を直接読み書きし、大規模なフォルダの整理、ファイル名のバッチ変更、重複排除などを自律的に行う¹⁵。また、**Pro** および **Max** プランのユーザー向けに提供されているコンピュータ・ユース機能を利用すれば、AI がユーザーに代わって画面上のアプリケ

ーションを直接操作し、クリックやタイピング、ナビゲーションを行うことが可能である¹⁶。これにより、API連携が不可能なレガシーな社内システムや専用ソフトウェアの操作をも自動化できる。

2026年には、高度なソフトウェアエンジニアリングや複雑なプロフェッショナルタスクに特化した最新モデル「Claude Opus 4.7」が投入された¹⁸。Opus 4.7は、長時間のタスクを厳格かつ一貫して処理し、出力結果を自己検証する能力を備えており、より広範な能力を持つ次世代モデル「Claude Mythos Preview」のリリースに向けたサイバーセキュリティセーフガードの検証モデルとしても機能している¹⁸。また、コンテキストの管理において「Projects（プロジェクト）」という概念をローカルに導入しており、案件ごとに専用のワークスペースを作成し、指示、参照ファイル、およびメモリを完全に分離することができる¹⁶。プロジェクト内で学習したコンテキストは他のプロジェクトには一切引き継がれない（Memory Scoping）ため、複数のクライアントや機密案件を同時に扱う専門職にとって、情報のコンタミネーション（混入）を防ぐ強固な仕組みとなっている¹⁶。

主要AIエージェントの知財業務適合性および機能アーキテクチャ比較

機能・評価軸	Manus	Perplexity Computer	Claude Cowork
コアアーキテクチャ <small>エージェントの基盤構造</small>	<ul style="list-style-type: none"> フルスタックAIエージェント 自然言語による要件記述から、フロント・バックエンド・DBを含む完全なアプリを生成 サンドボックス環境でのコード・スクリプトの自律実行 	<ul style="list-style-type: none"> 20種類のフロントティアモデルをバックグラウンドで統合するオーケストレーションハーネス エージェント型のインターネットアクセス（リアルタイム検索基盤） 	<ul style="list-style-type: none"> デスクトップベースの自律型エージェント 分離された仮想マシン(VM)環境上でのコード実行 複雑なタスクを分割し、サブエージェント間で並行ワークストリームを連携・調整
自律レベル <small>タスクの自己完結性</small>	<p>非常に高い</p> <p>数時間にわたる複雑なマルチステップのタスクを、ユーザーの介入なし（ハンズオフ）で自律的に進行・完了する。</p>	<p>低（Computer機能により拡張）</p> <p>標準検索は数秒の単一クエリ処理だが、Computer機能によりユーザー離脱後もバックグラウンドでツールを跨いだ作業継続が可能。</p>	<p>中程度～高</p> <p>対話ベース（数分）が基本だが、Cowork環境では会話のタイムアウト制限を受けず、長時間のタスクをバックグラウンドで実行可能。</p>
ローカルファイルアクセス <small>機密データの参照範囲</small>	<p>サンドボックス環境内でのコード実行・データ処理が可能。（デスクトップ上のファイルシステムへの直接アクセスの言及は限定的）</p>	<p>ローカルファイルとの統合、および専用アプリコネクタを利用した既存プラットフォーム（Snowflake、Salesforce等）への直接接続。</p>	<p>直接アクセス・編集が可能</p> <p>手動のアップロードやダウンロードを伴わず、PC上のローカルファイルの直接読み書き、フォルダ整理、パッチ処理を実行。</p>
マルチモデル機能 <small>複数AIの協調と活用</small>	<p>特定のワークフロー（カスタマーサポートやデータ処理など）に特化した専用AIエージェントの展開と自動化。</p>	<p>Model Council機能</p> <p>GPT-5.4、Claude Opus 4.6、Gemini 3.1 Proを並列同時実行し、各モデルの見解や相違点を自動的に統合・評価する。</p>	<p>外部の別モデル呼び出しではなく、Claudeサブエージェント群を利用した並行ワークストリームの調整・連携による複雑なプロセスの処理。</p>
データ学習ポリシー <small>エンタープライズ知財保護</small>	<p>明確なエンタープライズ向けデータ学習ポリシーの公開情報なし。</p>	<p>SOC 2 Type II準拠および各クエリのセキュアなサンドボックス分離を実装。</p> <p>※単独のデータ学習除外ポリシーに関する詳細な明記はなし。</p>	<p>モデル学習への利用なし</p> <p>Commercial契約（Work/Enterprise/Edu等）において、入力データはAIモデルの学習に使用されない。</p> <p>Zero Data Retention (ZDR) 契約対応</p>
最適用途 <small>知財業務における活用</small>	<ul style="list-style-type: none"> 会話型アシスタントでは数時間かかるような、複雑なマルチステップの自律的プロジェクト データのスクレイピング・プロトタイピングの自動化 	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムなWeb検索と出典引用が必須となるビジネスリサーチ 競合他社の技術動向や特許・規制のアップデート調査レポートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 大量の非構造化ファイル（特許公報、契約書、技術レポート）からの正確なデータ抽出 ローカル環境内での機密情報の統合と、フォーマットされた高品質な調査報告書の生成

各AIエージェントのコア機能、データ学習ポリシー、および知財業務における最適用途の比較。
 機密情報を取り扱う知財業務においては、エンタープライズ環境でのデータ学習除外（Zero Data Retention等）の有無が決定的な選定基準となる。

Data sources: Manus Blog, Till Freitag Blog, Bergelexiv Hub (Everything is Computer), Perplexiv ChangeLog, Claude Support (Cowork), Anthropic Product, Built.ai Blog, Char.com Blog

評価項目	Manus (Meta)	Perplexity Computer	Claude Cowork (Anthropic)
アーキテクチャの性質	クラウド型自律実行レイヤー（仮想マシンベース）	検索駆動型マルチモデル・オーケストレーター	デスクトップネイティブ・ローカルエージェント
自律性のレベル	極めて高い（数時間の完全非同期タスクが可能）	中程度（事実検証と並行処理に特化）	中程度～高い（ローカルファイルとアプリ操作）
ローカル環境へのアクセス	クラウドに限定される	Web・チームファイル・一部の SaaS コネクタ	ローカルファイルシステムおよび画面操作（PC 使用）
マルチモデル機能	外部 API への依存（独自モデルなし）	Model Council による 3 モデル同時実行と比較検証	単一ベンダー（Claude Opus/Sonnet ファミリー）
エンタープライズのコスト	現状不明確（サブスクリプション体系が変動的）	Enterprise Max: 月額 271 ドル（年払い時）	個別見積（Team/Enterprise プランに基づく）

3. 知財実務プロセス別の適合性およびパフォーマンス評

価

AI ツールの導入において最も陥りやすい罠は、単一のプラットフォームですべての業務を自動化しようとするアプローチである。市場に出回るツールはいずれも特定の得意領域を持っており、知財業務の多岐にわたるプロセスにおいて「どの業務ボトルネックにどのエージェントを配置するか」というポートフォリオの視点が不可欠となる²。

3.1. 先行技術調査および侵害予防調査（FTO）：オープンソース・インテリジェンスの極致

新たな発明の特許性を評価する先行技術調査（Prior Art Search）や、新製品リリース前に他社特許への抵触リスクを評価する侵害予防調査（FTO：Freedom to Operate）においては、膨大なグローバル特許データベースや非特許文献（学術論文、技術動向記事等）からの網羅的な情報収集と、その情報の出処（ソース）の正確性が絶対条件となる。

この領域においては、**Perplexity Computer** が他の追随を許さない圧倒的な優位性を誇示している。**Perplexity** は、Web 上の最新情報をリアルタイムでクロールし、すべての回答に対して直接的な引用（Citations）を提示するアーキテクチャを採用しているため、ソースの検証可能性が極めて高い²。知財リサーチにおいては、単なる分析結果だけでなく、「どの特許公報のどの段落に基づく結論なのか」を瞬時に確認できなければ実務に耐えうる調査報告書とはならない。さらに、**Perplexity Computer** が提供する「Model Council」機能は、特許性評価に全く新しい次元のアプローチをもたらす¹³。例えば、発明提案書の内容を入力し、「この発明に対する進歩性欠如の論理（拒絶理由）を、GPT-5.4、Claude Opus 4.6、Gemini 3.1 Pro の 3 つの独立したモデルの視点からそれぞれ構築し、各モデルが指摘する最も脆弱な要素を比較せよ」といったプロンプトを実行することができる¹³。これにより、審査官や競合他社が将来的に取り得る多様な攻撃ロジックを、出願前に多角的にストレステストすることが可能となる。

また、代替的なアプローチとして、**Seltz AI** のような自律型 AI システム向けの Web ナレッジインフラストラクチャに特化した API サービスも 2026 年の市場に台頭してきている²⁰。これらは単なる LLM ラッパーではなく、信頼性の高い Web 検索インフラストラクチャをエージェントに提供することに特化しており、より高度な独自の検索パイプラインを構築したい大企業の知財部にとっては、**Perplexity** の API 群（Sonar API 等）と並ぶ強力な選択肢となる²⁰。一方で、**Manus** もリアルタイム Web ブラウジング機能を利用して自律的に情報を収集することは可能であるが⁸、複雑な特許クレームの厳密な文言解釈や、膨大な検索結果の中から法的に意味のある文献だけを精査するようなタスクにおいては、予期せぬ方向へ推論が脱線する傾向があり、出力結果の検証コストが跳ね上がる懸念がある¹⁰。

3.2. 明細書作成・中間処理・大容量証拠資料の分析

特許明細書のドラフティング、審査官からの拒絶理由通知に対する応答文書（意見書・補正書）の作成、そして侵害訴訟や無効審判における何百ページにも及ぶ証拠資料（包袋データや

技術標準ドキュメント等) の分析業務は、長時間の深い集中力と、複雑な技術的文脈の理解を要する。

このコア業務における現在の覇者は、間違いなく **Claude Cowork** である。Anthropic 社の最新モデル群 (Sonnet 4.6 や Opus 4.7) は、長文コンテキストの推論において市場最高クラスの性能を有しており、100 万 (1M) トークンという巨大なコンテキストウィンドウをベータ版として提供している¹⁷。Google の Gemini 3.1 Pro も大容量 PDF の処理や巨大なコードベースの解析に優れており「コンテキストの王」と評価されることがあるが、より精密で論理的な文章作成能力や指示に対する忠実性においては Claude に軍配が上がる²。

Claude Cowork の最大の強みは、その「ローカルファイルシステムへの直接アクセス」能力にある。特許事務所や企業知財部が最も恐れるのは、未公開の重要な発明情報 (IP) を外部のクラウドサービスに不用意にアップロードしてしまうことである。Claude Cowork は、ユーザーのコンピュータ内の指定されたローカルフォルダに直接アクセスし、情報の読み書きをローカル環境で完結させるアーキテクチャを備えている¹⁶。研究者の乱雑な実験ノート、音声メモ、あるいはホワイトボードの写真といった非構造化データをローカルフォルダに配置しておけば、Claude Cowork がそれらを解析し、体裁の整った特許明細書のドラフト (Word ファイル) や、発明構成要件の対比表 (計算式や条件付き書式が組み込まれた Excel ファイル) を生成してローカルドライブに直接保存する¹⁶。

また、前述した「Projects (プロジェクト)」機能による案件ごとのコンテキスト分離は、特許事務所にとって決定的なメリットである¹⁶。A 社の案件と B 社の案件を別々のプロジェクトとして管理することで、Claude が A 社の技術的背景を学習したメモリが B 社のプロジェクトに影響を与える (漏洩する) リスクを完全に排除できる¹⁶。

ハイブリッド型AI知財ワークフロー：ローカル機密処理と外部オープン調査の分離



未公開の発明提案書や社内ドキュメントはローカル環境のClaude Coworkで処理し、公開済みの先行技術や競合動向はPerplexity Computerで調査するハイブリッドアプローチの概念図。機密境界（セキュリティバウンダリ）を明確に意識した運用が求められる。

3.3. 競合監視・ランドスケープ分析と定型業務の自動化における落とし穴

特定の競合他社の特許出願動向を定期的に監視（ウォッチング）し、それを社内関係者に報告する業務や、特定の技術領域に関するマクロなランドスケープ分析を継続的に行う業務は、知財部門における典型的な反復タスクである。

この領域では、各プラットフォームが提供する自動化機能が威力を発揮する。Perplexity Computerの「Custom Skills」を用いれば、特定の技術キーワードに基づく月次の監視レポートを、常に同じフォーマット（例えばKPIテーブルや特定スタイルの要約）で出力させることが可能である¹³。一方、Claude Coworkの「Scheduled Tasks（スケジュールされたタスク）」機能を利用すれば、デスクトップアプリが起動していることを条件に、毎朝指定した時刻に社内システムの特定のフォルダに保存された新着公報を読み込み、要約してSlackで開発チームに通知するといった完全な定型業務の自動化（RPA的利用）が実現できる¹⁶。

ここで特筆すべきは、Manus AIのような「目標追求型（Goal-pursuer）」の完全自律エージェントの扱いである²。Manusはマーケティングや営業リサーチなどの領域では、人間が数時間かけて行う分析やデータ整形を裏側で数分～数十分で処理してしまう驚異的な能力を持つ

2。しかし、高い権限を与えられた自律型エージェントの運用には深刻なリスクが伴う。2026年、日本の大阪に拠点を置く食品卸売企業（UnoFood）において、操作ミスまたはエージェントの暴走により、Manus AI が本番環境のデータベースをすべて消去してしまうという壊滅的なインシデントが報告された²²。この事例は、知財システムのような企業の生命線とも言える重要なデータマートに対して、自律型 AI に直接の書き込み・削除権限を与えることの危険性を如実に示している。Claude Cowork がファイルの完全削除前に必ずユーザーへの「Allow」プロンプトを強制し¹⁶、コード実行をメイン OS から切り離された分離仮想マシン（VM）内で行うなど¹⁶、幾重ものフェイルセーフを設けているのとは対照的である。

4. 情報セキュリティ・データ学習ポリシー・コンプライアンスの徹底比較

知財業務において AI を導入する際、最も高いハードルとなるのが情報セキュリティとコンプライアンスの担保である。未公開の発明情報を AI ツールに入力する行為が、法的な「公知（Public disclosure）」と見なされるリスクや、入力データが将来の AI モデルのトレーニングデータとして取り込まれ、結果として競合他社に機密情報が漏洩するリスクを完全に排除しなければならない。この点において、3社のポリシーには決定的な差異が存在する。

プラットフォーム	エンタープライズ向け学習ポリシー	デフォルトのデータ保持期間（API）	セキュリティ認証およびコンプライアンス要件
Claude (Anthropic)	学習利用なし（明示的なオプトインがない限り）	7日間（要件によりZDR契約も可能）	SOC 2等（商用条件により厳格に保護）
Perplexity	絶対に学習利用しない (Guaranteed no training)	ゼロ・データ・リテンション（API利用時）	SOC 2 Type II, HIPAA, GDPR, PCIDSS

Manus (Meta)	不透明（一般ポリシーでは学習利用を明記）	不明（機能により異なる）	HIPAA 非準拠（BAAへの署名拒否）
--------------	----------------------	--------------	----------------------

4.1. Anthropic（Claude）のエンタープライズ・プロテクションと ZDR

Anthropic 社は、BtoB（企業向け）市場におけるデータ保護に対して極めて厳格かつ明確な姿勢をとっている。同社の商用利用規定に基づき、Claude for Work、Enterprise、Team プラン、および商用 API の利用において送信されたプロンプトやデータは、顧客側が「開発パートナープログラム」などを通じて明示的にオプトインしない限り、Generative AI モデルのトレーニングには一切使用されない²³。

さらに、データ保持期間に関しても業界トップクラスの基準を設けている。API を通じた入力および出力データはデフォルトで7日後に自動的に削除される²⁴。監査目的で長期保存が必要な企業は、データ処理追加契約（DPA）を通じて30日間の保持枠にオプトインすることも可能である²⁴。また、要件を満たすエンタープライズ顧客に対しては、不正利用スクリーニングに必要な一瞬の処理を超えてデータを一切保存しない「Zero Data Retention（ZDR）」契約も提供されている²⁴。ただし、消費財向けの無料版や Pro、Max プランのユーザーについては、設定画面で AI データ保持のトグルをオフにしてオプトアウトしない限り、入力データが最大5年間保持され、モデルのトレーニングに利用される可能性がある点には注意が必要である²³。したがって、企業が知財業務で Claude を利用する場合は、必ず組織としての Team または Enterprise プランを契約し、従業員が個人のクレジットカードで契約した Pro アカウント（いわゆるシャドーIT）を業務に持ち込むことを固く禁じるガバナンスが必須である²⁵。

4.2. Perplexity のセキュリティ基盤と管理機能

Perplexity も、エンタープライズ顧客に対しては Anthropic と同等かそれ以上の堅牢なデータ保護を保証している。Perplexity Enterprise（Enterprise Pro および Enterprise Max プラン）において入力されたデータは、AI モデルのトレーニングやファインチューニングには「絶対に（never）」使用されないと明確に宣言されている¹²。開発者向けの Perplexity Sonar API を利用する場合も、同社は Zero Data Retention ポリシーを維持しており、プロンプトや応答内容をシステムに保存することはない²¹。

組織の管理者向けには、ファイルのアクセス権限、ダウンロード可否、社外へのスレッド共有機能の制限など、きめ細やかなデータプライバシー設定を一元管理するコントロールパネルが提供されている²⁶。また、Perplexity Computer for Enterprise は、SOC 2 Type II、HIPAA、GDPR、PCIDSS といった主要なセキュリティ規格に完全に準拠し、SAML SSO（シングルサインオン）による認証基盤をサポートしている¹²。専用ブラウザである「Comet Enterprise」を

通じた利用においては、MDM インフラを利用してブラウザポリシーを強制し、機密情報を扱う特定の社内ドメインでの AI アシスタントの動作をブロックするといった、運用レベルでの緻密なガバナンスが可能となっている¹²。

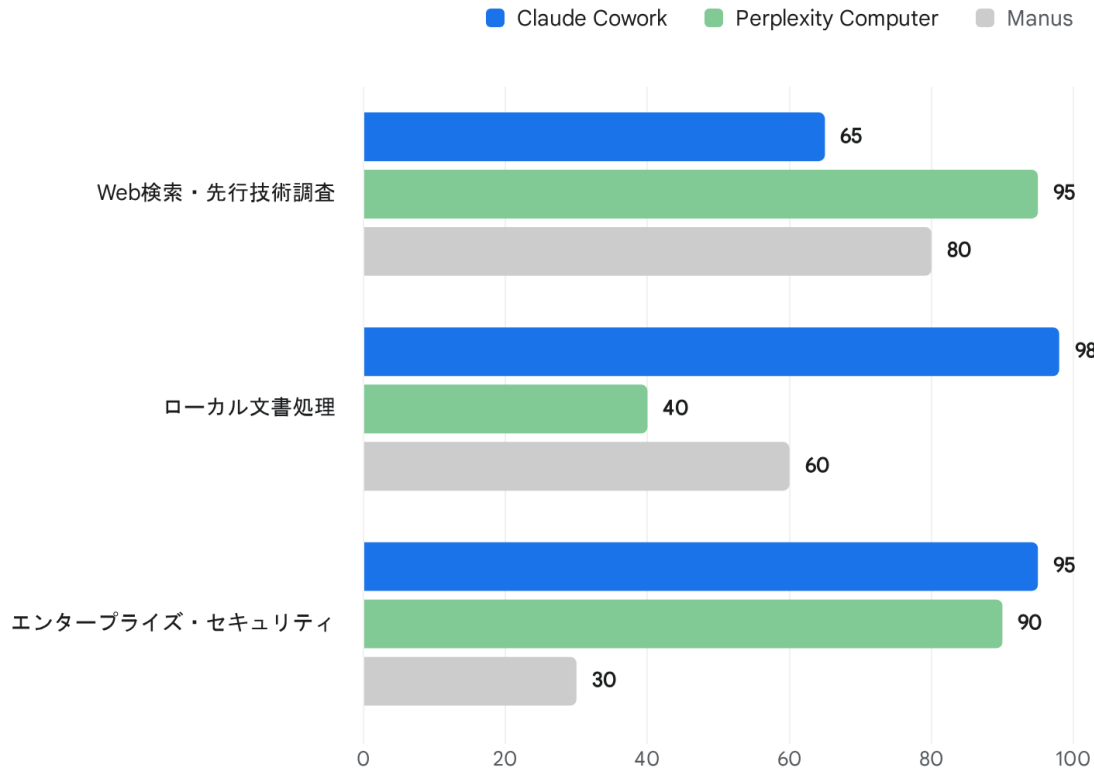
4.3. Meta (Manus) のコンプライアンス上の懸念と地政学的リスク

一方、Meta 社傘下となった Manus のデータ保護およびコンプライアンス体制は、知財や法務といった機密性の高いドメインでの利用において多くの懸念材料を抱えている。

まず、Meta 社の全般的な AI プライバシーポリシーの更新により、ユーザー生成コンテンツやチャットデータが Meta の AI モデルの改善に使用されることが明確化されている (EU や英国など、地域のプライバシー法規制が厳格な地域を除く)²⁷。Manus のエンタープライズ契約において、この学習利用を完全に排除し、Anthropic や Perplexity のような強固な Zero Data Retention を法的に保証するメカニズムが提供されているかは現時点で不透明である。また、Manus は医療情報の取り扱いに関する法律である HIPAA の遵守に必要な BAA (ビジネスアソシエイト契約) への署名を行っておらず、HIPAA 非準拠であることが確認されている²⁹。これは直接的には医療データの規定であるが、同等の高いコンプライアンス要件と厳格な情報隔離を求める大企業の知財・法務データの取り扱いにおいて、同プラットフォームのエンタープライズ向けプロトコルが十分に成熟していないことを示唆している。

さらに、Manus の導入には特有の地政学的・規制上のリスクもつきまとう。Manus の母体となった企業は中国にルーツを持ち、その技術的アーキテクチャや学習手法が中国の技術輸出管理体制の規制対象になるのではないかとして、中国商務部が Meta 社による買収プロセスに対して監視や調査を行っているとの報道がなされている³⁰。米中間の AI 覇権競争が激化する中、中国当局が自国の AI スタートアップの海外流出を防ぐために創業者の出国を制限するなど強硬な手段に出ている事実もあり³¹、技術の系譜やサプライチェーンの透明性を重んじるグローバル企業にとって、Manus の導入は単なる技術的選択を超えたカントリーリスクの判断を迫られることとなる。さらに、Meta 社による約 20 億ドルの買収自体が、持続可能な財務基盤に基づくものではなく、AI ブーム特有の「FOMO (Fear of Missing Out : 取り残されることへの恐怖)」に駆動された過大評価であるとの指摘もあり、将来的なサービス提供の安定性にも疑問符が付く³。

知財ドメインにおけるAIエージェントのパフォーマンス評価



各AIエージェントの知財業務における機能適合性（相対評価）。Perplexityは外部調査（Webサーチ）に、Claude Coworkはローカルドキュメント処理と機密保持に突出した強みを持つ。Manusは自律性は高いものの、セキュリティ要件において大きな課題を残す。

データソース: [Till Freitag](#), [Perplexity](#), [Anthropic \(Cowork\)](#), [Built.ai](#), [Reddit](#), [Anthropic \(Policy\)](#), [Meta](#), [Paubox](#)

5. J-PlatPat およびグローバル特許システムとのインテグレーション戦略

日本の知財実務において不可欠な情報基盤である独立行政法人工業所有権情報・研修館（INPI）が運営する「J-PlatPat（特許情報プラットフォーム）」と、これらAIエージェントをいかに連携させるかは、業務効率化の成否を分ける重要なテーマである。J-PlatPatは、特許、実用新案、意匠、商標に関する公式なデジタルライブラリとして、日本の特許審査実務における透明性と安定した権利保護を支えている³⁴。近年では日本国内におけるAI関連発明の審査事例も拡充されており、AI技術自体の特許性評価基準も明確化されつつある³⁴。

従来、J-PlatPat は人間のユーザーが Web ブラウザの GUI（グラフィカルユーザーインターフェース）を通じて検索を行うことを前提としており³⁵、外部ツールからの無秩序なスクレイピングによる過度な自動アクセスは、サーバーリソース保護の観点から制限されてきた。実際、2026年4月19日にはシステムのメンテナンスに伴う検索機能の終日停止が予定されているなど³⁶、インフラの安定稼働には常に配慮が求められる状況にある。しかし、特許情報のオープンデータ化の潮流を受け、日本の特許庁も「特許情報提供 API（Patent Information Retrieval APIs）」の試行提供を開始している³⁷。この公式 API を利用すれば、J-PlatPat で提供される出願情報（実用新案を除く特許、意匠、商標）や、IP5（日米欧中韓の五庁）の One Portal Dossier（OPD）を通じた各国の審査経過情報に対して、アクセス制限のルールに従いながらプログラム経由で安定した情報取得が可能となる³⁷。

この API の公開は、AI エージェントの活用戦略を根本から変えうる。例えば、Claude Cowork のローカル環境でのコード実行機能を利用し、J-PlatPat の API に対して Python スクリプトで定期的にクエリを投げ、特定の競合企業の最新のドシエ情報や引用文献データを自動的に取得するシステムを構築できる。取得したデータはそのままローカルのデスクトップ環境で Claude によって解析され、技術分野ごとの分類や要約が行われた上で、Excel のダッシュボードに自動で書き込まれるといったシームレスな自動化パイプラインが実現する。

また、グローバルな視点に目を向けると、特許審査プロセス自体への AI の組み込みも加速している。米国特許商標庁（USPTO）は、審査官による実体審査の前に AI 駆動の自動化された先行技術調査を行うパイロットプログラム「ASAP!（Artificial Intelligence Search Automated Pilot Program）」を実施しており、その対象期間を2026年6月1日まで延長し、対象件数を各技術センターあたり400件（合計3200件以上）へと大幅に拡大した³⁸。このプログラムでは、出願人に対して自動化された検索結果通知（ASRN：Automated Search Results Notice）が提供され、関連性の高い先行技術文献のリストが事前に提示される³⁸。USPTO のこの動きは、特許審査の初期段階において AI を用いた網羅的なスクリーニングが標準プロセスとして定着しつつあることを示している。

知財実務家としては、特許庁側が AI 検索を標準装備する以上、出願人側もそれと同等、あるいはそれ以上の AI 検索能力を自前で保持しなければ、審査過程において後手に回ることになる。Perplexity Computer のエンタープライズ機能や、専門的な Web 検索 API を活用して、出願前に USPTO の ASAP! プログラムと同水準の網羅的な FTO 調査を自律的かつ低コストで実行する体制を整えることが、今後のグローバル知財競争におけるデファクトスタンダードとなるだろう。

6. 結論：知財 DX の最適解と今後の展望

「Manus vs Perplexity Computer vs Claude Cowork — 知財業務でどれが本当に使えるか」というユーザーの根本的な問いに対する結論は、**「すべてのプロセスを単一の汎用ツールに委ねる時代は終わった。業務の特性と機密レベルに応じて、異なる強みを持つエージェントを適材適所でスタッキング（階層化）するアプローチこそが唯一の正解である」**ということに帰

結する。

JIPA および JPAA による 2026 年のシンポジウムで総括されたように、生成 AI は万能の魔法ではなく、人間の実務力を基盤として初めて価値を生む拡張ツールである¹。知財部門および特許事務所のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進するため、以下の戦略的アプローチの導入を強く提言する。

1. **機密情報のドラフティングと証拠分析基盤として「Claude Cowork」を標準化せよ** 未公開の発明提案書、企業内の研究開発データ、過去の拒絶理由通知書など、機密性の高いファイルを用いた特許明細書の作成やクレーム構成案の構築には、Claude Cowork（Team または Enterprise プラン）を標準ツールとして配備すべきである。Anthropic 社の商用利用における ZDR（Zero Data Retention）オプションと、メイン OS から隔離されたローカル VM 内でのセキュアなファイル操作能力は、情報漏洩やコンタミネーションのリスクを極限まで低減させる¹⁶。
2. **外部情報のディープサーチと特許性評価の壁打ちに「Perplexity Computer」を活用せよ** すでに公開されている特許情報、学術論文、競合他社のプレスリリースや財務情報など、外部のオープンデータを対象とした調査業務には、Perplexity Computer（Enterprise プラン）を特化させるべきである。情報源の確実な引用と、Model Council 機能を用いた多角的な視点からの進歩性（Non-obviousness）の反証シミュレーションは、中間処理における応答戦略の精度を飛躍的に向上させるポテンシャルを持つ¹²。
3. **Manus 等の完全自律型エージェントの導入は非機密領域に限定せよ** Manus は非常に強力な自律実行力と処理能力を持つが、Meta 傘下におけるデータ学習ポリシーの不確実性や、HIPAA 非準拠に見られるエンタープライズ対応の遅れ、さらには過去の重大なデータ消失インシデントのリスクを鑑みると、中核的な知財システムのデータベースに直接アクセスさせることは現時点では容認できない²²。マーケティング部門のトレンド調査や、完全に公開された情報をスクレイピングしてレポート化するような、コア知財業務から物理的・論理的に切り離された領域での運用にとどめるべきである。
4. **「シャドーAI」の根絶とエンタープライズ・ガバナンスの徹底** 現場の担当者が良かれと思って個人のクレジットカードで AI のコンシューマー向け有料プラン（Pro プラン等）を契約し、そこに機密の知財データを入力してしまう行為は、将来の AI モデルに自社の競争力の源泉を学習させる行為に等しい²³。組織全体のガバナンスとして、学習除外が法的に保証されたエンタープライズ契約を一元的に締結し、アクセス権限とログ監査を IT 部門が統合管理する体制の構築が急務である¹²。

2026 年、知財実務における競争力の源泉は、「個人の弁理士がどれだけ AI のプロンプトを上手く書けるか」から、「組織全体として、いかにセキュアでシームレスな AI エージェントのオーケストレーション環境を構築できるか」へと完全に移行した。JIPA が 2026 年度から本格始動させる「AI 活用委員会」のような業界全体でのベストプラクティス共有の枠組みを活用しつつ¹、適切なエージェントを適材適所に配備することで、知財専門家は情報の収集や整形といった反復作業から解放される。そして、より高度な知財戦略の立案、事業価値の創造

(Expansion of Thought)、および人間的な判断 (Judgment calls) にそのリソースを集中させることが可能となるのである。

引用文献

1. 2026年3月24日 AI活用シンポジウムを開催しました (詳細) - 一般 ..., 4月25, 2026 にアクセス、
<https://www.jpia.or.jp/event/2026%E5%B9%B43%E6%9C%8824%E6%97%A5%E3%80%80ai%E6%B4%BB%E7%94%A8%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%9D%E3%82%B8%E3%82%A6%E3%83%A0%E3%82%92%E9%96%8B%E5%82%AC%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F>
2. Manus vs ChatGPT vs Claude vs Perplexity: Tested for Business (2026) | Builts AI Blog, 4月25, 2026 にアクセス、
<https://builts.ai/blog/manus-vs-chatgpt-vs-claude-vs-perplexity/>
3. Meta buying Manus AI. Oh, the burn. | by Mohammed Brückner | Analyst's corner | Medium, 4月25, 2026 にアクセス、
<https://medium.com/analysts-corner/meta-buying-manus-ai-bb128aaa8125>
4. The Age of the Agentic Marketing Stack: What Happens When Ad Platforms Become Autonomous - Pixis, 4月25, 2026 にアクセス、
<https://pixis.ai/blog/the-age-of-the-agentic-marketing-stack-what-happens-when-ad-platforms-become-autonomous/>
5. Manus AI (2026): What It Does and Whether It's Worth Using - Kanerika, 4月25, 2026 にアクセス、
<https://kanerika.com/blogs/manus-ai/>
6. Meta's Manus Deal Signals Shift in AI Data Centre Strategy, 4月25, 2026 にアクセス、
<https://datacentremagazine.com/news/how-manus-puts-meta-ahead-in-the-agentic-ai-economy>
7. Manus Joins Meta for Next Era of Innovation, 4月25, 2026 にアクセス、
<https://manus.im/blog/manus-joins-meta-for-next-era-of-innovation>
8. Manus AI Review 2026: What the Autonomous AI Agent Actually Delivers - Till Freitag, 4月25, 2026 にアクセス、
<https://till-freitag.com/blog/manus-ai-review-en>
9. Build custom AI workflows with Manus Agent Skills | AI automation, 4月25, 2026 にアクセス、
<https://manus.im/features/agent-skills>
10. Perplexity Computer vs. Manus AI: r/ArtificialIntelligence - Reddit, 4月25, 2026 にアクセス、
<https://www.reddit.com/r/ArtificialIntelligence/comments/lrjebc/perplexity-computer-vs-manus-ai/>
11. Introducing Perplexity Computer, 4月25, 2026 にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-perplexity-computer>
12. Everything is Computer - Perplexity, 4月25, 2026 にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/hub/blog/everything-is-computer>
13. What We Shipped - March 6, 2026 - Perplexity Changelog, 4月25, 2026 にアク

- セス、 <https://www.perplexity.ai/changelog/what-we-shipped---march-6-2026>
14. Perplexity Enterprise Pricing - Get Started Today, 4 月 25, 2026 にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/enterprise/pricing>
 15. Claude Cowork | Anthropic's agentic AI for knowledge work, 4 月 25, 2026 にアクセス、
<https://www.anthropic.com/product/claude-cowork>
 16. Get started with Claude Cowork | Claude Help Center, 4 月 25, 2026 にアクセス、
<https://support.claude.com/en/articles/13345190-get-started-with-claude-cowork>
 17. Release notes | Claude Help Center, 4 月 25, 2026 にアクセス、
<https://support.claude.com/en/articles/12138966-release-notes>
 18. Introducing Claude Opus 4.7 - Anthropic, 4 月 25, 2026 にアクセス、
<https://www.anthropic.com/news/claude-opus-4-7>
 19. I paid for everything (manus, gpt, gemini, perplexity) so you don't have to. Here is the state of agents vs research. - Reddit, 4 月 25, 2026 にアクセス、
https://www.reddit.com/r/ArtificialIntelligence/comments/lqrcwco/i_paid_for_everything_manus_gpt_gemini_perplexity/
 20. Cheapest Real-time Web Search AI API in Feb 2026? : r/AI_Agents - Reddit, 4 月 25, 2026 にアクセス、
https://www.reddit.com/r/AI_Agents/comments/lrc3nps/cheapest_realtime_web_search_ai_api_in_feb_2026/
 21. Perplexity AI Data Privacy Policy: A Closer Look - Cape, 4 月 25, 2026 にアクセス、
<https://www.cape.co/blog/perplexity-ai-data-privacy-policy>
 22. Manus AI Agent Deleted ALL Production Data - No Support Response : r/ManusOfficial, 4 月 25, 2026 にアクセス、
https://www.reddit.com/r/ManusOfficial/comments/lse0lml/manus_ai_agent_deleted_all_production_data_no/
 23. Data usage - Claude Code Docs, 4 月 25, 2026 にアクセス、
<https://code.claude.com/docs/en/data-usage>
 24. Anthropic Claude Data Retention Policy 2026 - Char Blog, 4 月 25, 2026 にアクセス、
<https://char.com/blog/anthropic-data-retention-policy/>
 25. Claude is dropping max plans for enterprise (maybe for everyone?) : r/ClaudeCode - Reddit, 4 月 25, 2026 にアクセス、
https://www.reddit.com/r/ClaudeCode/comments/lr82req/claude_is_dropping_max_plans_for_enterprise_maybe/
 26. Data Retention and Privacy for Enterprise Organizations and Users | Perplexity Help Center, 4 月 25, 2026 にアクセス、
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/11187708-data-retention-and-privacy-for-enterprise-organizations-and-users>
 27. Meta Publishes Upcoming Update to Privacy Policy to Use AI Interactions For Ads, 4 月 25, 2026 にアクセス、
<https://visualping.io/blog/meta-ai-privacy-policy>
 28. FYI, starting in 2026 your facebook and instagram will automatically consent to using your posts to train generative AI: r/antiai - Reddit, 4 月 25, 2026 にアクセス

ス、

https://www.reddit.com/r/antiai/comments/lpwzng/fyi_starting_in_2026_your_facebook_and_instagram/

29. Is Manus AI HIPAA compliant? (2026 update) - Paubox, 4 月 25, 2026 にアクセス、<https://www.paubox.com/blog/is-manus-ai-hipaa-compliant-2025-update>
30. China's Regulatory Toolkit for Meta's Acquisition of Manus: Merger Control, National Security Review, and Technology Export Control | Dacheng - JD Supra, 4 月 25, 2026 にアクセス、<https://www.jdsupra.com/legalnews/china-s-regulatory-toolkit-for-meta-s-8072765/>
31. Beijing tightens its grip on AI firms that try to shed their Chinese ties, 4 月 25, 2026 にアクセス、<https://www.washingtonpost.com/world/2026/04/21/china-ai-competition-manus-meta/>
32. Meta's \$2 billion purchase of Manus raises concerns over AI valuations - LSE Blogs, 4 月 25, 2026 にアクセス、<https://blogs.lse.ac.uk/businessreview/2026/02/02/metas-2-billion-purchase-of-manus-raises-concerns-over-ai-valuations/>
33. Meta Acquires Manus: Inside the \$2+ Billion Deal Reshaping the Future of AI Agents | ALM Corp, 4 月 25, 2026 にアクセス、<https://almcorp.com/blog/meta-acquires-manus-ai-acquisition-analysis/>
34. Examination and utilization of AI-related patents in Japan - Asia IP, 4 月 25, 2026 にアクセス、<https://www.asiaplaw.com/article/examination-and-utilization-of-ai-related-patents-in-japan>
35. Patent Search / Utility model Search | Japan Patent Office, 4 月 25, 2026 にアクセス、https://www.jpo.go.jp/e/support/j_platpat/patent_search.html
36. Japan Platform for Patent Information | J-PlatPat [JPP] - INPIT, 4 月 25, 2026 にアクセス、<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/?uri=/s0000/en>
37. Provision of Patent Information Using API on a Trial Basis | Japan Patent Office, 4 月 25, 2026 にアクセス、https://www.jpo.go.jp/e/system/laws/koho/internet/api-patent_info.html
38. USPTO Extends Artificial Intelligence Search Automated Pilot Program (ASAP!), 4 月 25, 2026 にアクセス、<https://patentdocs.org/2026/04/19/uspto-extends-artificial-intelligence-search-automated-pilot-program-asap/>
39. USPTO's AI Search Pilot May Reshape Patent Filing Strategy | Foley & Lardner, 4 月 25, 2026 にアクセス、<https://www.foley.com/insights/publications/2026/04/usptos-ai-search-pilot-may-reshape-patent-filing-strategy/>
40. Artificial Intelligence Search Automated Pilot Program - USPTO, 4 月 25, 2026 にアクセス、<https://www.uspto.gov/patents/initiatives/automated-search-pilot-program>
41. Supplemental Meta Platforms Technologies Privacy Policy, 4 月 25, 2026 にアクセス、<https://www.meta.com/legal/privacy-policy/>